

全国訪問教育研究会

第39回全国大会(瀬戸内)開催要項

2026年4月28日

■実行委員長挨拶■

ようやく第39回大会のご案内ができること、嬉しく思います。中四国では2003年の高知、2004年の岡山に続き、22年ぶり3度目の開催です。年々訪問教育担当者が減少するなか、1つの県だけで全国大会を開催することが難しくなってきました。そこで今回は4県の実行委員で準備を進め、瀬戸内大会として愛媛県で開催します。

私が最初にこの大会に参加したのは、香川県小豆島で初めて訪問教育を担当した年、ちょうど瀬戸内国際芸術祭が始まった頃でした。高松から小豆島まで、通勤で乗る船から見える瀬戸内海の景色は、私にとっては幼い頃から見慣れた当たり前の景色でした。けれども、この芸術祭で「多島美」という言葉を知ったことで、ほかの地域にはない特別なもの、素晴らしい景色だと感じられるようになりました。

この大会には、当時の私と同じように訪問教育の経験年数の浅い方もたくさん参加されます。参加するたびに感じるのは、自分の住む地域や勤務する学校で思っていた「訪問教育とはこういうもの」という概念が、必ずしも他県と同じではないということです。これまで当たり前だと思っていたことが、ほかの参加者にとっては大きなヒントとなることもあれば、休憩時間にたまたま話をした他県の参加者から印象深いエピソードを聞くこともあります。

現在は訪問教育から離れている方、手探りで毎日の授業を考えておられる現役の方、訪問教育にかかわる多くの方々が、日本列島の各地から集まって直接顔を合わせて話をするこで、より素晴らしい実践を積み重ねていく一助となるような大会にできればと、今大会のテーマは「一人ひとりのいのちが輝く教育をめざして～小さな島、大きな島、想いをつなげよう～」としました。

昨年度、一昨年度の関東での全国大会は遠かったけれど、愛媛県なら参加できるという方、校内の訪問教育担当者は1人で相談できる人がいないという先生などなど、みなさん一緒にざっくばらんに語り合ひましよう、そして学びましょう。たくさんの方のご参加、お待ちしております。

全国訪問教育研究会第39回全国大会(瀬戸内) 実行委員長
三好 佳子

■大会テーマ■

「一人ひとりのいのちが輝く教育をめざして ～小さな島、大きな島、想いをつなげよう～」

■開催日時■

2026年8月5日(水) 9:30～16:30(受付開始9:00)

■会場■

愛媛大学教育学部附属特別支援学校

愛媛県松山市持田町1丁目5番22号

市内電車「勝山町」駅より徒歩10分または伊予鉄バス10番線「附属中学前」バス停より徒歩すぐ

■主催■

全国訪問教育研究会
瀬戸内大会実行委員会

■後援(申請中を含む)■

文部科学省・こども家庭庁
全国特別支援教育推進連盟・全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
全国特別支援学校知的障害教育校長会・全国特別支援学校病弱教育校長会
社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会・全国訪問教育親の会・全国病弱教育研究会
全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
香川県教育委員会
香川県特別支援学校校長会
愛媛県教育委員会

■大会日程■

(1)開会行事 9:30~10:20

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ①開会挨拶 | 榎木 暢子(全国訪問教育研究会会長) |
| ②実行委員長挨拶 | 三好 佳子 |
| ③来賓挨拶 | 福田 智佳子(全国訪問教育親の会) |
| ④訪問教育に関する第十次全国調査報告 | 榎木 暢子(全国訪問教育研究会会長) |

(2)記念講演 10:30~11:40

「瀬戸内の凧に波紋 -訪問教育が描く、子どもたちの大人への軌跡-
~生活の場から始まる『教育』が、人生の豊かさをデザインする~」
一般社団法人在宅療養ネットワーク代表理事 英 早苗 さん

(3)分科会 13:00~16:00

分科会名	分科会のねらい(◇共同研究者)
①健康・身体づくり	障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対する関わりについて考えます。呼吸・摂食・排泄・運動動作などの指導について、講義・実践を交えながら交流しましょう。 ◇船橋 篤彦(広島大学大学院人間社会科学部研究科 准教授)
②コミュニケーション	重度・複障害児のコミュニケーションを育てるための支援や配慮について、訪問での教育実践について交流しましょう。それぞれの発達段階にある子どもを丁寧に観察、その主体的な反応を活用して主体的・対話的な学びを深める視点から、幅広く協議・討議をしましょう。 ◇荻田 知則(愛媛大学教育学部 教授)
③授業づくりと教育課程	障害が重く、限られた環境・条件の中での授業づくりは、誰も悩むところだと思います。貴重な経験や工夫を交流しあって共有の財産としましょう。訪問での実践内容、また、青年期に入っている生徒への実践についても、「あそび」から発展した「文化」という視点から幅広く討議しましょう。☆分科会内で教材紹介の時間を設

	<p>けます。おおすすめの教材があれば、持ってきてください。</p> <p>◇塚 るり子(高松大学発達科学部 准教授)</p>
④病気療養児の教育	<p>“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児の教育内容・方法や、院内学級・分教室・病院内訪問教育の実践を深めていきましょう。</p> <p>◇斉藤 淑子(全国病弱教育研究会 会長)</p>
⑤教育と地域での生活支援 -医療・福祉・教育の連携-	<p>子どもたちの学びと生活を豊かにするためには、「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、地域支援のネットワークづくりが大切になっています。医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたち、内部疾患のある子どもたちなど、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と地域での生活を考えていきましょう。</p> <p>◇西村 幸(公益財団法人日本訪問看護財団松山相談支援センター管理者)</p>

※各分科会では参加者によるレポート発表を募集しています。詳細については次の項をお読みください。

(4) 閉会行事 16:15~16:30

- ① 実行委員長挨拶 三好 佳子
- ② 謝辞 檜木 暢子(全国訪問教育研究会会長)
- ③ 次回開催地から一言
- ④ うた「小さな いのち」

■分科会レポート発表について■

分科会でのレポート発表を希望される方は、6月20日までに次の①~③についてご連絡ください。

- ① 分科会名・氏名・学校名または所属先等
- ② メールアドレス
- ③ レポートタイトル

レポート発表に関する連絡先

全国訪問教育研究会 全国事務局 中野 良 (r.nakan0219@gmail.com)

[レポート発表に関する注意事項]

- ・ 発表されたレポートは「訪問教育研究第39集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼については別途ご連絡します。
- ・ レポートの配布については、レポートの判断を尊重します。配布する場合、個人情報保護の観点から、発表を行う分科会の参加者のみを対象とします。
- ・ 大会実行委員会で用意できる機器はプロジェクターとスクリーンのみです。パソコン等の端末やその他の機器は各自でご用意ください。

■事前申込みについて■

○期間 2026年5月1日から7月30日まで



○方法

チケット販売サービス「Peatix」を使用します。

次の URL または QR コードからイベントページを開き、「チケットを申し込む」からお申し込みください。

<https://2026setouchi.peatix.com>

申込みの際は Peatix から確認メールが届きます。Peatixの注意事項をお読みの上、お手続きください。

確認メールが届かない場合は次頁の問い合わせ先(全国事務局長)までご連絡ください。

学校等、所属先から公金参加の場合には Peatix では申込みできません。事務局で代わって申し込みますので、本要項末尾の問い合わせ先(全国事務局長)までご連絡ください。

○参加費 ※払込み後の返金はありません。予めご了承ください。

会員 2000円(研究集録あり、送料込み)

一般 4000円(研究集録あり、送料込み)

学生・保護者・家族 2500円(研究集録あり、送料込み) 1000円(研究集録なし)

■当日申込みについて■

○期間 2026年7月31日から大会当日まで

○方法

本要項末尾の事務局長連絡先までご連絡ください。参加費は当日受付でお支払いください。(現金のみ)

○参加費

会員 3000円(研究集録あり、送料込み)

一般 5000円(研究集録あり、送料込み)

学生・保護者・家族 3000円(研究集録あり、送料込み) 1000円(研究集録なし)

■研究集録について■

大会終了後に「訪問教育研究第39集」を送付します。今回の大会の内容や訪問教育に関する資料を掲載します。2027年1月発行予定です。

問い合わせ先

全国訪問教育研究会事務局長 長 正晴 chou_masaharu@yahoo.co.jp

全国訪問教育研究会会長 榎木 暢子 kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

全国訪問教育研究会ホームページ <http://zenhoken.com/> 本要項のダウンロードができます。